

研究種目： 基盤研究（C）
研究期間：2006～2008
課題番号： 18520102
研究課題名（和文） スペイン美術史と古典古代の遺産 基礎資料の構築と解析
研究課題名（英文） The History of Spanish Art and the Legacy of Ancient Classics-the Research and Analysis on Various Fundamental Data
研究代表者
大高 保二郎（OTAKA, Yasujiro）
早稲田大学・文学学院・教授
研究者番号：70118503

研究成果の概要：

わが国においてほとんど未開拓の分野であったイベリア半島の古代美術について、前3世紀末から見出される古代ローマの影響を境に、1. 古代イベリア美術（広い意味において）2. ギリシア・ローマ的美術、に大別される。前者は、土着のイベリア半島の風土にケルト、フェニキア（後にカルタゴ）の流入で緊密に融合して東方的な様式を形成する一方、後者はその伝統を断ち切り、古典的な美術様式を移植することになった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	480,000	3,380,000

研究分野：美学・美術史

科研費の分科・細目：2806

キーワード：イベリア、古典古代、陶器画、ベラスケス、ピカソ、エルチェ

1. 研究開始当初の背景

このテーマはもう 30 年以上前、澤柳大五郎教授の下で古代ギリシア美術を学んで以来、イベリア半島の古代美術研究をトラウマのように抱き続けてきたが、具体的な動機は 2003 年に企画、監修した「ピカソ・クラシック 1914 - 1925」展である。ピカソには、古典的なギリシア・ローマ的古代美術への憧憬と同時に、原初的で力強い古代イベリア美術の伝統が彼自身の生来の体質として宿ることも新発見であった。そこから古代イベリア美術研究の必要性を痛感し、少しずつ資料収集しつつアプローチをしてきた。今回の調査研究はその基礎を築くことを第一の目標としていた。

2. 研究の目的

- (1) イベリア半島において、有史からキリスト教化するまでの古代美術がいかんにして形成されたか、歴史的、民族学的、美術史的にその全体像を構築する。
- (2) 通称「古代イベリア美術」の形成とその特質、代表作例とそれらの分布、さらには 19 世紀後半になってからようやく明らかにされるようになったその受容史を解明する。
- (3) ルネサンス以降のスペインにおいて、イタリア・ルネサンス同様、古代美術あるいは古代の精神が「再生」したとすれば、具体的にはどのような形で蘇ったのであろうか。
- (4) ピカソ以降の近代、そして現代の美術作品に古代イベリア美術の造形センス、その精神が意図せずとも流れているのではないか。それこそが、ギリシア・ローマ的な古典古代だけでは語りえない

スペイン美術の真髄ではないだろうか。

3. 研究の方法

スペイン古代世界の基準作例（ローマ属州時代以前）を実見調査。

フェニキア（カルタゴ）系 colonización púnica

遺跡

Cadiz, Los Arrabales, la zona del Astillero; Ibiza, El Puig d'es Molins

彫刻

Figurilla alabastrina, de la necrópolis de Galera(M.A.N.,fig.124)

Figuras de barro cocido, El Puig d'es Molins(M.A.N.,fig.137)

工芸

Broche de la cinta del cinturón, La Aliseda(M.A.N.,fig.139)

Diádema aurea y collar, La Aliseda(M.A.N.,fig.142)

これまで謎とされてきた cultura tartésica(タルテッソス王国、前 8 - 6 世紀)もここに含められ、"Orientalizante"の典型とみなすことができる。

ギリシア系 colonización griega

遺跡

Ampurias(la neápolis)

彫刻

様々なブロンズ像、大理石像。イベリア半島製は、多くが断片的で、完成度は低い。

陶器画

Ampurias から出たアッティカ製 alabastros,

kylix, lekythoi, kratera を見れば、por la pureza de su gusto y las excelencias de su factura, no pueden tenerse más que como importados(輸入品としか考えられない)。しかしながら、イベリア半島のギリシア植民地では、同時に“arte griego provincial”あるいは“arte grecoibérico”と呼んでいいような作品制作(Antonio García y Bellido) が誕生していることも見逃すべきではないであろう。

ケルト系 las tribus célticas

遺跡

Numancia; el castro de Coana(Asturias), el castro de Santa Tecla(Pontevedra)

彫刻

Los toros de Guisando(Avila), Lampadario de bronce, tumba de Guerrero de Calaceite, Teruel(fig.413)

装身具

vaina de puñal o espadas, necrópolis de la Osera(Avila), necrópolis de las Cogotas(Avila) Diádema aurea de Ribadeo(M.A.N.,fig.400)

近年の研究で、toro とされてきた escultura zoomorfa は、Verraco de Segovia のように豚(cerdo)と再解釈されるようになった。

イベロ系 (通称イベリア美術、前6 - 1世紀) el arte ibérico

様々な要素、傾向が融合しあいながら、“スペイン的な”と呼びうるような独創的なスタイルが形成された。作例も数多く、また Osuna (Sevilla)での発掘を契機にフランスにおいて19世紀後半に注目されるようになってから、近代美術との関連からも無視できない存在となつて

いる。

分布は、イベリア半島の地中海沿岸に北から南に走る弓上のラインに集中している。

遺跡都市

Tarragona, Puig Castellar, San Antonio de Calaceite(Teruel), acropolis de Azaila(Teruel)

遺跡

Pozo Moro(Albacete) のネクロポリスに建てられた階段状塔(pilar-estela)のモニュメント; Cerro de los Santos(Albacete); Osuna; Baza(Granada); Elche

彫刻の代表作

La “Gran Dama” del Cerro de los Santos;un grupo de relieves, procede de Osuna (20世紀初頭にルーヴル美術館イベリア彫刻展示室で公開。その後、一部はスペインに返却される)。双笛フルト奏者、戦士、騎馬像、ホルン奏者、狩猟、“接吻”場面、牡牛など、多彩な主題で注目される;人頭牛身のアントロポモルフォ型の la “bicha” de Balazote(M.A.N.,fig.293)。

その様式、完璧さの点で例外的な作品として la Dama de Baza および la Dama de Elche を忘れてはならない。

また、数多く出土した奉納用小型ブロンズ製彫像も重要である。

絵画

完全な姿で伝えられるものは決して多くはない。わずかに、urna funeraria に動物や植物が多彩色で装飾された作例が残されているだけである。

一方、色彩こそモノクロミーであるが、豊かでエネルギーな造形を誇示する一連の通称「イベリア陶器(cerámica ibérica)」は、壊れやすい廉価な素材ながら、イベリア的な造形センスを余すところなく伝えてくれる貴重なジャ

ンルである。

イベリア陶器

アンダルシア陶器と南東部陶器に大別される。アンダルシア陶器：Galera および Toya のネクロポリスから出た壺では、帯状の幾何学文様が主流となっている。むしろ、注目されるのは以下のグループであろう。

出土した場所は Archena, Elche, Liria, Verdolay, Alicante などが挙げられる。特に注目すべき作例には固有名詞（愛称）が与えられている。

“Vaso de los guerreros”(Archena, M.A.N., および Oliva, M.A. de Cataluña); “vaso Cazurro”(Ampurias, M.N. de Arq. De Cataluña, fig.334); vaso ibérico de Oliva (戦闘場面、fig.322,323); varios vasos de Liria(Valencia) ここでは戦い、狩り、海釣り、踊り、闘牛など、様々なシーンが帯状の空間にフリーズ状に展開される; Gran calato de la Alcudia de Elche では植物や動物に囲まれた神的な女性の頭部が描かれている。

略号

M.A.N =Museo Arqueológico Nacional, Madrid

Fig.=M. Almagro, A.Garcia y Bellido, *Arte prehistórico. Colonizaciones púnica y griega. El arte ibérico. El arte de las tribus célticas*, Ars Hispaniae I, Madrid, 1946

4. 研究成果

- (1) わが国において初めて、イベリア半島における古代美術の諸問題、その実相が明確に定義されるところとなり、そのことは古代世界の美術史研究に寄与する

だけでなく、近代以降、見出されたそれらの作品（例えば20世紀初頭のルーヴル美術館のイベリア彫刻展示室）がアヴァンギャルド芸術の誕生にどれほど寄与したかを具体的に指摘できるようになった。

- (2) イベリアのギリシア美術需要は、エトルリア人の場合とは対照的に、主にフェニキア人（植民都市エンポリオン）を媒介とした間接的なものに過ぎなかったのではないか。副葬品として出土するギリシア製陶器は概して貧弱で、物語表現に乏しく、それらへの古代イベリア人の関心の低さが窺えよう。とはいえ、前4世紀に位置づけるべき「エルチェの貴婦人」、「バーサの貴婦人」の坐像彫刻はモニュメンタルかつ擬古典主義的であり、ギリシア美術の介在なくしては生まれ得なかった（篠塚千恵子、2008年の「フォーラム」基調報告）。

- (3) 一方、キリスト教中世では、その性格からして異教古代的な要素は断片的にしか見出すことができない（例えば金沢百枝、「フォーラム」研究報告）。しかしながら、ルネサンス以降、対抗宗教改革の時代にあっても、ここではギリシア・ローマ的な古典古代への関心が理念的、様式的にも、多様な形で復活してくる。クレタ島生まれのエル・グレコは、その出自たるギリシア人であることと、16世紀イタリア滞在での教養を通して、古代世界と大きく関わっていた（松井美智子、「フォーラム」研究報告）。リベラの場合も、ナーポリでの活動という、他

のスペイン人画家との大きな環境の違いもあって、神話を題材とした現存作品6点を通して表明された。特にその残忍、醜の驚異的な描写には、詩人マリーノやバジーレの著作の中の「皮を剥がれた老婆」との関連が指摘される(川瀬佑介、「フォーラム」研究報告)。またベラスケスの古代彫刻への関心と、第二次イタリア旅行での彫刻収集は、最近明らかにされた新資料の発掘を通して極めて具体的な姿が明らかにされた(久々湊直子、「フォーラム」研究報告)。

- (4) ピカソとその同時代、およびそれ以降の美術家への影響に関しては、一部は先のフォーラム研究報告「ピカソと多様な古代」で簡潔な報告を行ったが、全体的なイメージは今秋の論文(『美術史研究』に掲載決定)で発表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

大高保二郎 「古代美術の残存(継承)・忘却・再興」フォーラム「スペイン美術と古代世界」基調報告、『スペイン・ラテンアメリカ美術史研究』10号、2009年、pp.47-49(査読あり)

大高保二郎 「イベリア古代美術の形成と特質、そして受容をめぐる」『美術史研究』47冊、2009年、早稲田大学美術史学会、ページ数未定(掲載決定、査読なし)

[学会発表](計7件)

「古代美術の残存(継承)・忘却・再興」大高保二郎 フォーラム「スペイン美術と古代世界」趣旨説明

「ギリシア美術の西漸とイベリア文化」篠塚

千恵子(東北芸術工科大学)フォーラム「スペイン美術と古代世界」基調報告

「カタルーニャ・ロマネスクと古代—ジローナの《天地創造の刺繍布》の月暦図を中心に」金沢百枝(國學院大學)フォーラム「スペイン美術と古代世界」研究報告

「エル・グレコと古代」松井美智子(東北学院大学)フォーラム「スペイン美術と古代世界」研究報告

「ジュゼペ・デ・リベーラの神話画について」川瀬佑介(ニューヨーク大学大学院美術研究所)フォーラム「スペイン美術と古代世界」研究報告

「ベラスケスと古代彫刻蒐集」久々湊直子(学習院大学)フォーラム「スペイン美術と古代世界」研究報告

「ピカソと多様な古代美術」大高保二郎 民族藝術学会、スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会共催、2008年12月13日、セルバンテス文化センター東京

[その他](1件)

フォーラム「スペイン美術と古代世界」の開催代表：大高保二郎 2008年12月13日、セルバンテス文化センター東京

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大高保二郎 (OTAKA YASUJIRO)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：70118503